

## 大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	4	大学等名	京都光華女子大学
テーマ	テーマⅠ アクティブ・ラーニング		

### 【総括評価】

**B**：一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組があり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。

### 【コメント】

<優れている点>

- ・授業のアクティブ・ラーニング（AL）化、学習支援環境の充実、リフレクションの徹底、FDを柱として大学全体の改革が概ね加速されていることが認められる。特に、全学共通科目を中心にルーブリックを導入し、学生の自己評価と教員評価を確認していることは評価できる。
- ・学長のリーダーシップに基づくトップダウンだけではなく、ボトムアップで教職員が自律的に推進計画を立て、その計画を学長が決定・支援するという風土を醸成していることは評価できる。また、学生と教員の両方に対して、多角的な観点や方法による調査分析が実施されており、客観的なエビデンスに基づくPDCAサイクルを運用している。

<改善を要する点>

- ・取組の特色のひとつである全学必修の初年次科目「京都光華の学び」の授業が、アカデミックスキルの修得にやや偏っているように見受けられる。ALと建学の精神を学ぶこととのつながりを更に深く検討し、「京都光華」を冠とする全学必修授業に相応しい内容充実を図ることが必要である。また、退学率の低下、国家試験の合格率の上昇、実就職率の向上が、本事業とどのように関連しているのかの検証結果を示していただきたい。
- ・ルーブリックの導入率が目標値を大幅に下回っている問題については、しっかりとした要因分析を行い、課題の特定及び解決方法を明確化した上で、現実的な見通しを持ちつつ本事業を続行することが必要である。
- ・キャリア形成学部及び健康科学部を含んだ全学的な実施体制の更なる整備と可視化が求められる。また、実施体制におけるピアサポーターやクラスアドバイザー等の位置付けが不明であることから、本事業に参画する各主体の位置付けを明確にする必要がある。
- ・本事業の総合的な成果として、「成績中間層以下の学生の『学習意欲の低さ』『学びの重要性に対する認識不足』」という共通課題に、どのようなインパクトをもたらしたのかを明確にする必要がある。個々の取組が総体として、京都光華女子大学に固有の問題の解決にどのように寄与したのか（しうるのか）という視点を携えて、今後の事業を推進することが必要である。そこから得られた知見を一般化ないしモデル化した上で情報発信することによって、他機関への波及効果を更に高めることが必要である。